

第2回フラッグシップ輸出産地に関する有識者会議 主な意見

○フラッグシップ輸出産地の選定基準（案）について、委員の主な意見は以下のとおり。

- 輸出産地の定義は、第1回会議において示されたタイプ別の先進的輸出産地と認識の齟齬はない。
- 輸出産地の選定を進めていくにあたって、いくつか具体的に産地のイメージが示されているため、問題なく進められる。
- 少量でも付加価値を付けて輸出を伸ばせる場合もあるため、「数量または輸出額」を条件とすることも一案ではないか。
- 鳥インフルエンザなど病気の発生も考慮し、産地に単年ではなく継続的に意欲を持って取り組んでもらえるような選定基準をお願いしたい。
- 選定基準のうち、海外のニーズに関連してより多くの事例を記載してはどうか。
- 産地の方には、コスト競争力を磨く、消費者とコミュニケーションを取り、食べ方を伝えていくこと、現地輸入業者との関係構築を円滑に行うことを意識していただきたい。
- 輸出産地の選定基準のうち、「継続的・安定的な輸出」については、現時点では生産力・輸出力があっても、その担い手が今後も経営やその規模を維持しているのかが心配であり、こうした点も考慮する必要があるのではないか。
- 選定基準のうち「求められる量」及び「継続的・安定的」については、凶作や疾病で作物が取れない、国内出荷分がなく輸出に充てる分が確保できないときの配慮が必要。
- 今後は、国産原料を使用した加工食品の輸出にも力を入れていく必要。
- 輸出産地の選定基準として、プロモーションに関する事項を加えるとより実践的になるかと思う。販促やビデオやシール等のツールを活用して、どのようにお客様に伝えていくかも今後議論すべき課題。
- 国内流通の途中で海外輸出用として輸出される商品もあるなかで、輸出産地としては輸出向けに自ら意思をも

って輸出している産地と理解。

- 輸出するだけでなく、インバウンドを含めた循環ができると商品が定着すると考えており、インバウンドと連携した取組も評価できる仕組になれば良い。
- 日本の歴史があるなかで職人の方々が技術を持って作っている産品であることも、産地を選定する上では良い観点。
- 理念については、理念の前に端的に表現したタイトルのようなものがあるとよりわかりやすい。
- 産品の生産面だけではなく、物流の観点で品質の良い商品を最終消費者の元までしっかりと届けるところを加味した点を考慮する必要。また、輸出産地の実態として、輸出商社と生産者だけではなく、販売先も一体となって出口戦略まで確立している産地を選ぶべき。
- 輸出産地に選定されることで、その具体的なメリットについても明示しておいた方がわかりやすい。
- 生産・物流・販売のサプライチェーン全体がしっかりしていないと安定的に輸出できない。そのため、輸出货量・輸出入額といった定量的な基準だけではなく、サプライチェーンをどのように構築しているのかを評価する仕組もあった方がよい。

以上